

第597号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2018年12月14日
発行責任者 喬木村公民館長 徹
市 瀬 編集責任者 公民館編集部 長 志
仲 田 久 印刷 龍共印刷株式会社

第三回 平和学習会

ドキュメンタリー映画 二〇一七年製作

原田 要 平和への祈り

元ゼロ戦パイロットの百年

「君を殺さなければ僕が殺される。戦争ほど残酷な行為はない。」これは映像の冒頭に流される映画の主人公原田要さんの言葉です。

「君を殺さなければ僕が殺される。戦争ほど残酷な行為はない。」これは映像の冒頭に流される映画の主人公原田要さんの言葉です。

太平洋戦争中、日本海軍の主力戦闘機ゼロ戦に搭乗し、多くの敵機を撃墜したパイロット原田要さん。戦後は自らの罪を償うために、地元長野市で幼児教育に情熱を注ぐ一方で、戦争体験を後世に伝えることを自らの使命として平和や命の尊さを訴え続け、一昨年五月に九十九歳九カ月の波乱万丈の生涯を閉じた原田要さんをご存知でしょうか。

今年度三回目の公民館平和学習会、ドキュメンタリー映画「原田要く平和への祈り」を上映し、久保田 毅 氏に講演を初めて聞いた時、当時九十八歳の原田さんは二時間余り立ちっ放しで講演された後に倒れてしまっ...

原田 要 平和への祈り

元ゼロ戦パイロットの百年

久保田 毅

原田 要

平和への祈り

元ゼロ戦パイロットの百年

この八巻には、十八作品がのっています。タイトルになっている『野獣の島』が代表作品ですが、これは、最初『少年倶楽部』に掲載された。

「少年倶楽部」掲載の作品として、公民館報五百五十五

「土間のヒキガエル」昭和二十九年三月 「わたしは父といっしょに、サギ草をさがしにでかけるのでした。落ち葉の上

に休むと、落ち葉が、コソッ、コソッと音をたてるのです。

「それは、空色の、青いしまズボンをはいた、はでなトカゲであったり、土色をしたはだに大つぶのいぼをつけた、みにくいヒキガエルであったりしました。どうしたものでか、父はあのみにくいすがたのヒキガエルが、たいそうすきでした。春さきになると、三十ぴきちかく集めては、この庭にはなつのでした。近所の人たちはヒキガエルをきらっています。人家の床下にひそんでいて、その家の人の生き血をすうというのです。

ある日、金作さんが報告にきてくれました。『ヒキガエルってたいしたやつでありまして。明神様の沢を通りかかったら、大きなヒキガエルがムクドリをくわえておりました。』と

「そのへびは、頭をもたげて、私の方をちらちらと見ました。ガラス玉のような冷たい目です。せなかに黒と赤のまぶたがついているへびでした。へびはコケの上をすべっていきます。その方向には、ヒキガエルが、両手をついて遠くの方を見つめています。へびとカエル。いったいどうなることだろうかと、わたしはむねをドキドキさせながら見守っていました」

三月になりました。土間のヒキガエルがむつくりと出て来ました。『おお、こいつはすてきだ。同じやねの下で、ヒキガエルどのが、冬眠しておったのだぞ。いやいやこれは、大したできごとだ』父は、大きな声で、からからとわらいました。

大事なこととは結果ではない。考えることだと私は思う。夏休み延長に向けての検討が学校教育のあり方を見直すきっかけとなることに期待したい。(館長)



宮尾哲雄監督の講演会

「国や民族、肌の色、貧富の差があっても、人間に優劣はない。生きていくには、二度と戦争をしないという強い意志と強く調されました。

最後に、「人間はいつの時代もその時代と共に生きていく。今の時代を理解するために、過去の歴史を学び、教訓にすることが今を生きる私たちに課せられた宿題。様々な情報の中から自分で判断する力、メディア・リテラシーを身に付けてほしい」と結ばれました。今回、九十

おしらせ 第36回 ふるさとづくりフォーラム
今回は災害について学びます。本年度は台風や大雨による「避難準備・高齢者等避難開始」「避難勧告」が発令されました。こんなとき自分達は、自治会はどう対応したらよいかを学びます。
日時 平成30年2月17日(日) 13時~
場所 福祉センター2階多目的ホール
講演会と分科会形式で、災害時の対応の仕方について学びます。詳細については来月の組合回覧、「ふるさとづくりフォーラム」チラシをご覧ください。
ふるさとづくりフォーラム実行委員会
事務局：喬木村公民館社会部 電話 33-2002 FAX 33-3682

代から小学生まで幅広い方が参加して下さいました。私たちは、原田要さんのご遺志を心に刻んで、これからも多くの皆様とともに学んでいきたいと思えます。

あの時

夏の猛暑を受け、学校へのエアコン設置に続いて県教委は市町村に夏休み延長を促す方針を出すことになった。夏休みは本当に長くなるのだろうか。年間登校日数などの教育課程の編成は、本来、学校の裁量で計画され、地教委が承認することになっているが、問題はないのだろうか。

職員からの提案を受け「夏休み一ヶ月超計画を検討したことがある。単に登校日数を減らすだけの問題ではない。必要な授業時数は確保できるのか、子どもの学力保障は大丈夫なのか、行事を削ることで充実感や満足感、達成感を得られる経験が不足することはないのかなど、様々な視点で考える必要があった。都会並みに四十日間の夏休みとするのは無理だが、在校生は卒業式後に二日ほどの登校日を設けて授業をする。十二月に行っていた個人懇談会を夏休み中に実施するなどの工夫をすれば、一ヶ月を超える夏休みにするにはできる」とプロジェクトチームから提案された。結局、卒業式後には職員の人事異動が発表され、引越を伴う異動者の負担が大きいことがネックとなつて一ヶ月を超える夏休みは実現できなかったが、明確な目標を持って課題を検討し合ったことは職員にとつても有意義であったことを思い出す。

第31回 椋鳩十夕やけ祭

第三十一回 椋鳩十夕やけ祭

椋鳩十記念館・図書館長 菅 沼 利 光

第三十一回「椋鳩十夕やけ祭」が、十一月二十五日（日）に福祉センターにおいて開催されました。今年も小春日和の穏やかな夕やけ祭となり、うれしく思いました。

まずは、オープニング。喬木第一小学校合唱部の美しい歌声に合わせて椋鳩十作詞「心の海」を全員で歌いました。

続いて、「第三十一回椋鳩十賞読書感想文コンクール」の表彰式を行いました。本年度は小学生から中学生まで六百三十五名の応募がありました。今年も「一般の部」が中止になった初めての年でしたが、小中学生の

応募数は昨年の応募数を超え、近年にない多くの応募がありました。喬木村からは「椋鳩十賞」に原さとかさん（第一小三年）、羽生彩華さん（第一小六年）、胡桃澤彩音さん（喬木中三年）の三名が、「優秀賞」は、松村咲希さん（第二小四年）が受賞されました。

受賞者を代表しての感想文発表では、「椋鳩十賞」を受賞した胡桃澤彩音さんが、『るり寺物語』の感想文「伊那谷の昔に想いを馳せる」を発表しました。

表彰式の後、講演会までの休憩時間に、講演会講師の塚原成幸さん（清泉女子短期大学准教授、道化師）にパフォーマンスをしていただきました。軽妙な語り、ジャグリングしながらりんごをかじったり、ビデオケース程のプラスチックの箱を一つずつ手と手の間に挟みこんだり、観客と一緒に皿を回したりと、休憩時間があつという間に過ぎてしまっパフォーマンスでした。

三時からは、「懐かしくて、新しい 紙芝居の世界」をテーマに、紙芝居の世界に活動していただきます。と題して塚原成幸さんの記念講演がありました。

塚原さんは、「現役の道化師で大学の先生をしているのは日本中で私一人。天然で空間が表現できる、まさ



塚原成幸さんの紙芝居

に日本の美意識が紙芝居の中にあること。「KAMISHIBI AI（紙芝居）」は、「KARAOKE方ラオケ」「KAROUSHI（過労死）」などと共に日本語で海外に通じる国際語であること。また、紙芝居は「紙+芝居」であり、読むのではなく演じることの大切さを具体的に教え

ていただきました。紙芝居の舞台、照明、声の変化、紙の抜き方（早い遅い、半分抜く・震わせて抜く等）、間の取り方、手や足を使った大切な技法を話しながら、合間に「あんもちみつ」や「ひもかとおもつたら…」や「ツルかえる」の紙芝居の実演を交えながら教えていた



北澤彰利選考委員長による感想文の講評

椋鳩十賞 読書感想文コンクール表彰式



賞	部	学校・一般	学年	氏名
椋鳩十賞	1・2年	飯田市立上郷小学校	1年	林 旺史朗
	3・4年	喬木村立喬木第一小学校	3年	原 さとか
	5・6年	喬木村立喬木第一小学校	6年	羽 生 彩 華
	中学校	喬木村立喬木中学校	3年	胡桃澤 彩 音
優秀賞	1・2年	松本市信州大学付属松本小学校	2年	谷 本 丈 治
	3・4年	喬木村立喬木第二小学校	4年	松 村 咲 希
	5・6年	高森町立高森北小学校	5年	松 下 郁 果
	中学校	長野市立東部中学校	3年	上 島 泉 澄

ぼくは、このほんをさいしよによんだとき、なみだがありました。どうしてなみだが出たかというところもつるが、ひとりぼっちで、かなしそうだったからです。おとうさんのつるも、おかあさんのつるもないなんて、さみしいとおもいます。ひとりぼっちのつるは、じぶんひとりできつねやいぬからみをまもらなければならなかったなんて、たいへんだったろうなあとおもいます。よるもくすりねむる

椋鳩十賞



「ひとりぼっちのつる」

飯田市立上郷小学校 一年

理論社

林 旺史朗


「わたしのスズメさん」

ことができなくて、かわいそうだなとおもいました。えさをとるときもえさばかりでなく、つるがつかかたいくちばしで、ひどくあたたまをつつかれて、ちがいにじんでしまいました。きついたら、ただらうなあとおもいます。だんだんえさばがわかってきたけれど、ひとりぼっちだからおなかをすかせたきつねにねらわれたり、とびかられたり、おいかげられたりしました。ぼくはこころのなかで、「にげろーぜつたいたすかっ」とおもいました。あぶないところをたすけ

てくれたのは、とてもしんせつなつるのかぞくでした。ひとりぼっちだったつるは、おとうさんづるやおかあさんづる、こどものつるとあえて、つるさんよかつたね。

ほんとうによかつたとおもいます。ずつとずつとたのしくくらししてほしいなあとおもいます。つるさんよかつたね。

椋鳩十賞



「かたあしの母すずめ」

喬木村立喬木第一小学校三年

理論社

原 さとか

とよんだり、親しみをこめて「片あしさん」とよんだりするようにになりました。



橋鳩十賞 喬木村立喬木第一小学校六年 羽生 彩華

「金色の川」

理論社

金色の絆

カワウソの親子が住んでいるのはどんどころなんだろう。さらさら澄んだ川かな、色鮮やかな緑の森の中にあるのかな、と色々想像してみました。でも、カワウソの親子がかわいいだけでなく、こんな力強く生きていかなんて思いませんでした。

たきのうら側の岩の上にカワウソの親子は住んでいました。子カワウソは、まだ生まれてまもなく、母カワウソはずいぶん年をとっていました。これまでの経験からたきさんの知恵を



橋鳩十賞 喬木村立喬木中学校三年 胡桃澤 彩音

「るり寺物語」

ポプラ社

伊那谷の昔に想いを馳せる

この物語を読んだとき、まづどこまでが史実なのか気になり物語に出てくる事柄などを調べてみた。物語の題名にもなっている瑠璃寺は高森町大島山にある。物語に出てくる青獅子は伝承と

ぶっつけていきました。むな毛はむしりとられて、むねがむき出しになっていました。それでもなお、片あしスズメはたたかい、いよいよ最後にはへびに勝つことができました。わたしは、「わたしのスズメさん、よくやっただね。」と思いました。片あしスズメは、はげしいたたかいでつかれて、

「すぐに菜の花ばたけの中にひなにあげるためのえさをとりに行きました。いつもの日常がもどってききました。きつと、絶望を知らない「わたしのスズメさん」は、これから先きがおとすれても、ゆうかんに立ち向かって生きていくだろうと思います。

母カワウソも愛情を全て注いで子カワウソを大切に育てています。危険がいっぱいでも、親子は仲良く暮らしていました。冬になり、親子は谷川のおく深くへ入りこみました。そこで二人の狩人にねらわれます。そして、子カワウソが足をいぬかれ、狩人につかまってしまいます。目の前でつかまって、母カワウソは心配で悲しくてたまらなかつたはず。でも、「必ず助け、待っていて」と強い気持ちで狩人に向かっ

ていきました。つかまっていた子カワウソは、本能で死んだまねをしていました。狩人に足で転がされても筋肉ひとつ動かしません。「お母さんは絶対助けに来てくれる。お母さんを信じて私も

に、すぐに菜の花ばたけの中にひなにあげるためのえさをとりに行きました。いつもの日常がもどってききました。きつと、絶望を知らない「わたしのスズメさん」は、これから先きがおとすれても、ゆうかんに立ち向かって生きていくだろうと思います。

村の若い百姓が兵糧として取り上げられる米や麦を、遠い三河へと運び、帰ってきたものはほとんどいなくなりました。武田が負け、兵士が天竜川をさかのぼったあとの伊那谷の百姓衆の様子はどうも印象に残った。「ああ、戦いのない、おだやかな日というものは、こんなにもよいものか」という言葉は、今も昔も戦いで苦しいのは弱い立場の者であるこ

何でもできると思っていた。だから金や米を大量に持って行き、娘と交換しようとする。だが娘は鬼太郎の本性を分かっていた。すると鬼太郎は怒り悔しがり、仇討ちをする。里人達がゆかいゆかいと面白がる場面は、この親子の人間の醜い部分がよくわかる場面だ。強欲な親子と対照的なのが、寺の和尚である。寺に追い詰められた和尚と、娘、寺に火をつけられようが、自分が焼けようが、

最後にこの物語は、困窮に座ったおばあさんが子供たちに話を聞かせている。このような光景、昔は生活の一部であったのだろう。しかし、今はほとんどない。家にいてもテレビ、携帯に目を向け家族で会話する機会すら減っている気がする。ましてや核家族が増え地域の昔話を親や祖父母から聞くことは滅多にない。椋先生はこういふ時代になることを予想していたのかも知れない。椋先生がおばあさんの代わりに私たちに伝えてくれているのだろう。伊那谷に伝わる古い古い物語を。



「ひとりぼっちのつる」 松本市信州大学付属松本小学校二年 谷本 丈治

もうなか間だよ

「ひとりぼっちのつる」って、どういう意味だろうと思つて、この本を読みはじめました。つるくん、ひとりできみしかつたね。ねる時は見回りしてねむれない日が多くて大へんだったと思います。

ぼくは、いつもお父さんとお母さんがまもってくれます。それに、弟のけんじくんがいるからいつもあそんだりして楽しいです。もし、ぼくがつるくんみたいに一人ぼっちですごすことになったらさびしいし、なにもできないうんじやないかと思ひます。えさをたべる時、ほ

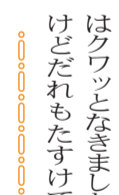
うらむようになったのです。私は、灰坊太郎をかわいがつていた三吉が、かん単にあげるわけがないと思ひました。私は正直に言う、いい気味だと思ひました。でもよく考えてみると、私だつて友達を持つている物がほしくなることがあるなと思ひました。灰坊太郎を自分のものにしてしようとした運平の気持ちもわかります。そして、『南アルプス一のかりの名人』といううめいよを三吉にゆず

最後、この物語は、困窮に座ったおばあさんが子供たちに話を聞かせている。このような光景、昔は生活の一部であったのだろう。しかし、今はほとんどない。家にいてもテレビ、携帯に目を向け家族で会話する機会すら減っている気がする。ましてや核家族が増え地域の昔話を親や祖父母から聞くことは滅多にない。椋先生はこういふ時代になることを予想していたのかも知れない。椋先生がおばあさんの代わりに私たちに伝えてくれているのだろう。伊那谷に伝わる古い古い物語を。

最後、この物語は、困窮に座ったおばあさんが子供たちに話を聞かせている。このような光景、昔は生活の一部であったのだろう。しかし、今はほとんどない。家にいてもテレビ、携帯に目を向け家族で会話する機会すら減っている気がする。ましてや核家族が増え地域の昔話を親や祖父母から聞くことは滅多にない。椋先生はこういふ時代になることを予想していたのかも知れない。椋先生がおばあさんの代わりに私たちに伝えてくれているのだろう。伊那谷に伝わる古い古い物語を。

最後、この物語は、困窮に座ったおばあさんが子供たちに話を聞かせている。このような光景、昔は生活の一部であったのだろう。しかし、今はほとんどない。家にいてもテレビ、携帯に目を向け家族で会話する機会すら減っている気がする。ましてや核家族が増え地域の昔話を親や祖父母から聞くことは滅多にない。椋先生はこういふ時代になることを予想していたのかも知れない。椋先生がおばあさんの代わりに私たちに伝えてくれているのだろう。伊那谷に伝わる古い古い物語を。

最後、この物語は、困窮に座ったおばあさんが子供たちに話を聞かせている。このような光景、昔は生活の一部であったのだろう。しかし、今はほとんどない。家にいてもテレビ、携帯に目を向け家族で会話する機会すら減っている気がする。ましてや核家族が増え地域の昔話を親や祖父母から聞くことは滅多にない。椋先生はこういふ時代になることを予想していたのかも知れない。椋先生がおばあさんの代わりに私たちに伝えてくれているのだろう。伊那谷に伝わる古い古い物語を。



「アルプスの猛犬」 高森町立高森北小学校五年 松下 郁果

「アルプスの猛犬」

理論社

山犬の灰坊太郎は、三吉に大事に大事に育てられ、やがて立派な犬になりました。三吉は、同じく三吉の運平に、灰坊太郎をゆずつてくれとたのまれましたが、三吉はことわりませんでした。その後、運平は灰坊太郎と三吉を

私には、強欲な親子が登場する。鬼太郎は城の姫に一目ぼれし、嫁にもらいたく思つた。父親は金さえあれば何でもできると思つて、だから金や米を大量に持って行き、娘と交換しようとする。だが娘は鬼太郎の本性を分かっていた。すると鬼太郎は怒り悔しがり、仇討ちをする。里人達がゆかいゆかいと面白がる場面は、この親子の人間の醜い部分がよくわかる場面だ。強欲な親子と対照的なのが、寺の和尚である。寺に追い詰められた和尚と、娘、寺に火をつけられようが、自分が焼けようが、

最後、この物語は、困窮に座ったおばあさんが子供たちに話を聞かせている。このような光景、昔は生活の一部であったのだろう。しかし、今はほとんどない。家にいてもテレビ、携帯に目を向け家族で会話する機会すら減っている気がする。ましてや核家族が増え地域の昔話を親や祖父母から聞くことは滅多にない。椋先生はこういふ時代になることを予想していたのかも知れない。椋先生がおばあさんの代わりに私たちに伝えてくれているのだろう。伊那谷に伝わる古い古い物語を。

最後、この物語は、困窮に座ったおばあさんが子供たちに話を聞かせている。このような光景、昔は生活の一部であったのだろう。しかし、今はほとんどない。家にいてもテレビ、携帯に目を向け家族で会話する機会すら減っている気がする。ましてや核家族が増え地域の昔話を親や祖父母から聞くことは滅多にない。椋先生はこういふ時代になることを予想していたのかも知れない。椋先生がおばあさんの代わりに私たちに伝えてくれているのだろう。伊那谷に伝わる古い古い物語を。

最後、この物語は、困窮に座ったおばあさんが子供たちに話を聞かせている。このような光景、昔は生活の一部であったのだろう。しかし、今はほとんどない。家にいてもテレビ、携帯に目を向け家族で会話する機会すら減っている気がする。ましてや核家族が増え地域の昔話を親や祖父母から聞くことは滅多にない。椋先生はこういふ時代になることを予想していたのかも知れない。椋先生がおばあさんの代わりに私たちに伝えてくれているのだろう。伊那谷に伝わる古い古い物語を。

最後、この物語は、困窮に座ったおばあさんが子供たちに話を聞かせている。このような光景、昔は生活の一部であったのだろう。しかし、今はほとんどない。家にいてもテレビ、携帯に目を向け家族で会話する機会すら減っている気がする。ましてや核家族が増え地域の昔話を親や祖父母から聞くことは滅多にない。椋先生はこういふ時代になることを予想していたのかも知れない。椋先生がおばあさんの代わりに私たちに伝えてくれているのだろう。伊那谷に伝わる古い古い物語を。

さでつよくパシッとたたきました。これを見ていたつるくんは、「はねてたいたり、くちばしでついたりしてすごい。」と思つた。ぼくはかんがえました。まもつてもらつて、うれしかったと思ひます。「もうなか間だよ。」とは虫をとつてもらいながらつるくんはクウクウとなきました。きつと「ありがとう」と言つて、おぼくは、他人の物がほしくなるのは分かるけど、だからと言って灰坊太郎にじゅうを向けるなんて、この時の運平はとても冷たい心だなあと思ひました。それなのに、どうして三吉は運平を助けに行つたんだろうと思ひました。そんなにかん単に運平を許したのかなと思ひました。

もつと思ひました。灰坊太郎です。灰坊太郎はケガをして、しかもそのケガをさせた本人を助けようといふのだから、私は最初灰坊太郎は主人である三吉の命令にしたがつただけだと思つていました。けれど、山犬の群れを前にしても全くひるまず、たつた一頭で立ち向かつていく灰坊太郎のす

私には、強欲な親子が登場する。鬼太郎は城の姫に一目ぼれし、嫁にもらいたく思つた。父親は金さえあれば何でもできると思つて、だから金や米を大量に持って行き、娘と交換しようとする。だが娘は鬼太郎の本性を分かっていた。すると鬼太郎は怒り悔しがり、仇討ちをする。里人達がゆかいゆかいと面白がる場面は、この親子の人間の醜い部分がよくわかる場面だ。強欲な親子と対照的なのが、寺の和尚である。寺に追い詰められた和尚と、娘、寺に火をつけられようが、自分が焼けようが、

最後、この物語は、困窮に座ったおばあさんが子供たちに話を聞かせている。このような光景、昔は生活の一部であったのだろう。しかし、今はほとんどない。家にいてもテレビ、携帯に目を向け家族で会話する機会すら減っている気がする。ましてや核家族が増え地域の昔話を親や祖父母から聞くことは滅多にない。椋先生はこういふ時代になることを予想していたのかも知れない。椋先生がおばあさんの代わりに私たちに伝えてくれているのだろう。伊那谷に伝わる古い古い物語を。

最後、この物語は、困窮に座ったおばあさんが子供たちに話を聞かせている。このような光景、昔は生活の一部であったのだろう。しかし、今はほとんどない。家にいてもテレビ、携帯に目を向け家族で会話する機会すら減っている気がする。ましてや核家族が増え地域の昔話を親や祖父母から聞くことは滅多にない。椋先生はこういふ時代になることを予想していたのかも知れない。椋先生がおばあさんの代わりに私たちに伝えてくれているのだろう。伊那谷に伝わる古い古い物語を。

最後、この物語は、困窮に座ったおばあさんが子供たちに話を聞かせている。このような光景、昔は生活の一部であったのだろう。しかし、今はほとんどない。家にいてもテレビ、携帯に目を向け家族で会話する機会すら減っている気がする。ましてや核家族が増え地域の昔話を親や祖父母から聞くことは滅多にない。椋先生はこういふ時代になることを予想していたのかも知れない。椋先生がおばあさんの代わりに私たちに伝えてくれているのだろう。伊那谷に伝わる古い古い物語を。

最後、この物語は、困窮に座ったおばあさんが子供たちに話を聞かせている。このような光景、昔は生活の一部であったのだろう。しかし、今はほとんどない。家にいてもテレビ、携帯に目を向け家族で会話する機会すら減っている気がする。ましてや核家族が増え地域の昔話を親や祖父母から聞くことは滅多にない。椋先生はこういふ時代になることを予想していたのかも知れない。椋先生がおばあさんの代わりに私たちに伝えてくれているのだろう。伊那谷に伝わる古い古い物語を。

最後、この物語は、困窮に座ったおばあさんが子供たちに話を聞かせている。このような光景、昔は生活の一部であったのだろう。しかし、今はほとんどない。家にいてもテレビ、携帯に目を向け家族で会話する機会すら減っている気がする。ましてや核家族が増え地域の昔話を親や祖父母から聞くことは滅多にない。椋先生はこういふ時代になることを予想していたのかも知れない。椋先生がおばあさんの代わりに私たちに伝えてくれているのだろう。伊那谷に伝わる古い古い物語を。

2018 今年の村のニュース

喬木村長選挙当選証書付与式 市瀬村長二期目がスタート

任期満了に伴う喬木村長選は一月九日に告示され、立候補者は現職の市瀬直史氏以外届け出はなく、前回に続き、無投票で再選が決まった。翌一月十日には当選証書付与式が行われ、市瀬村長の二期目がスタートすることとなった。



就任式であいさつをする市瀬村長

大学駅伝で 松澤兄妹活躍する



喬木村役場にて報告をする拓弥選手

阿島北の松澤兄妹が大学駅伝で活躍しました。兄の拓弥選手は、法政大学のメンバーとして箱根駅伝の四区を走りました。妹の綾選手は、十月に行われた全国日本大学女子駅伝で、名城大学のメンバーとして兄と同じ四区を走り、名城大の優勝に貢献しました。村から二人も全国大会に出場するのは大変うれしい事です。村民あげて応援していきましょ。

喬木中女子テニス 北信越大会出場

九月二十二日、信州スカイパークテニスコート(松本市)にて「二〇一八年全国選抜中学校テニス選手権長野県予選大会」が行われ、喬木中学校女子五名が団体戦に出場しました。喬木中は控え選手がいない少数精鋭で臨み、見事三位入賞、北信越大会への出場権を獲得しました。



北信越大会出場を決めた喬木中女子メンバー

喬木村多機能型施設 みんなの広場 アスボがオープン

旧みなみ信州農協喬木支所跡地に昨年より工事が進められてきた喬木村多機能型施設が、四月一日にオープンしました。この施設は、ボランティア活動、スポーツクラブの活動、介護予防活動、防災や災害時のボランティアセンターの拠点施設として位置づけられており、多くの住民の憩いの場、集いの場、学習の場としての利用が期待されています。誰もが使えるフリースペースがあり、会員登録すれば使用可能なトレーニングマシンも配置されており、入口付近にはオープンカフェも併設されています。また、フットサルやテニスができる全天候型人工芝コートと駐車場が配置されています。



みんなの広場 アスボの全景

霜月旬会

喬木俳句クラブ

落日を追うて黄葉の旅路かな
山茶花の蕾濃い紅秘めにけり
色紙で母折りにけり寒雀

西元くにこ

みずうみに映ゆる紅葉の波静か
願い込め胡弓の音色風の盆
蔵の前猫と取り合ふ日向ぼこ

市橋ヨリ

農具小屋ひとつ小窓の蔦かずら
粧ひのりんご駅舎や藍の空
和服着のゆれる車内や秋祭り

田中君子

山の端の入り日に夫と柿吊るす
甲斐の森霧湧き巻きて画の如く
松茸の城へ八十路の杖の道

村山たか子

しずまりて鳥の声澄む木守柿
竹の揺れ止みて雲間の十三夜
鳴き終へし鈴虫包み眠らせり

秦 恭子

根深汁今ごろ気づく母の労
足元の小さき幸せ数柑子
むなしさも豊かさもあり冬に入る

松葉孝子

古井戸を覆い縋るや蔦紅葉
雨音に声細りゆく虫の宿
翅あれば風渡りゆく蕎麦の花
悲しみや葱をみじんに切り刻む
白粉花を灯し一人の夕餉かな
九条は卒寿の婆の命かな

吉川てる子

原 美恵

花すもも子守の道は川づたひ
残り柿雨の測量声高に
山百合や城址は歩幅なきところ

本山栄信

村総合文化祭

「喬木力結集!」
村の魅力最大化しよう!!

十一月十七日・十八日の二日間作品展示は十六日より三日間、恒例の喬木村総合文化祭がみなみ信州農協喬木支所の農協祭と合同開催で行われました。今年も久し振りに二日間ともに快晴で、屋外開場のテント村とイベントステージは大勢の方で賑わいました。また、スタンプラリーでは大勢の方がカードを手に各会場を回り、ペリー&ゴアの景品を受け取っていました。作品展示は例年通り中央社会体育館を会場に四十団体、芸能大会は交流センター前の特設ステージを会場に十五団体に参



盛り上がる芸能大会 特設ステージ

加いたいただきました。作品展示は保育園・学校や各分館、各クラブ等の力のこもった作品が多数展示され、多くの人の目を惹きつけてくれました。芸能大会は常連の皆さんだけでなく、中学生やダンス、太鼓で初出場の団体もあり、それぞれがさまざまに趣向をこらし、会場を盛り上げてくれました。また、パン屋さんによるパントマイム&風船パフォーマンスショーでは、子どもさんなどが大盛り上がりでした。

来年も様々な団体の日頃の活動の成果を発表していただく機会として、多くの団体の皆様のご参加をお待ちしております。もちろん初めての方大歓迎です。ご来場いただいた皆様、ご参加いただいた各団体文化祭運営にご協力いただき、素晴らしい文化祭となりましたことを感謝致します。

編集後記

仲間とかぶ葉を漬けた。かぶ葉の汚い葉を切る者。温かいお湯で洗う者。その後水で洗う者。そして五キロの束に縛る者。あつと言間に九十キロ程を洗いあげた。そして二日後、またみんなで自分の十キロを切つて、それぞれ漬けた。その三日後には源助かぶ菜特有のちよつと苦味のある漬物のでき上がり!

家族みんなで「うまい、うまい」とつつき、胃が痛くならないか心配である。